

第1回 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）

に関する技術検討専門部会

1 日時

令和8年1月22日（木） 10時00分から11時20分

2 場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 東京駅丸の内中央 ホール 12D
（東京都千代田区丸の内 1-9-1 丸の内中央ビル 12階）

3 出席委員

◎岩田 孝仁 静岡大学 客員教授
日下 敦 国立研究開発法人土木研究所 道路技術研究グループ 上席研究員
中澤 博志 静岡理工科大学 教授
藤田 智弘 国土交通省 国土技術政策総合研究所 構造・基礎研究室 室長
藤山 知加子 横浜国立大学 教授
萬年 一剛 神奈川県 温泉地学研究所 研究課 課長
矢島 良紀 国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員
【五十音順：敬称略】◎は部会長

出席オブザーバー

山口 大介 国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 副所長
（代理：山田 寛雄 国土交通省 関東地方整備局 道路計画第一課 課長補佐）
加藤 弘法 国土交通省 中部地方整備局 沼津河川国道事務所 副所長

議 事 概 要

技術検討専門部会について

- 規約について承認された。
- 部会長は、互選により岩田委員が選出された。
- 部会長に事故があるときの職務代行委員は、藤山委員が指名された。

- オブザーバーとして、国土交通省横浜国道事務所副所長及び沼津河川国道事務所副所長が承認された。

検討エリアの整理について

- ルート帯が想定される本地域は、火山地形・火山地質から形成されていること、活断層が分布していること、地下水が豊富で多くの温泉地が点在しているなどの特徴を確認した。
- 本地域は、地質リスクや水資源への影響など、制約条件が多いことなどが想定されることから、特に具体的な検討を行う必要があるエリアを「重点検討エリア」に設定する。
- 重点検討エリアは、①箱根山 ②湯河原・熱海温泉 ③丹那盆地周辺 ④沿岸部 ⑤神奈川県側接続先 とし、次回の委員会に報告することを確認した。

今後の検討の進め方（案）について

- ルート帯の複数案の設定に向け、重点検討エリア毎の技術的な課題や配慮すべき事項等について段階的に整理していき、委員会に報告しながら進めていくことを確認した。

その他意見

- 計画段階で調査を丁寧に行い、地質リスクを明らかにして複数案の設定に活かすことは非常に良い取組である。
- 重点検討エリア以外においてもリスクの見落としが無いように検討してもらいたい。
- 地域の事情等も把握したうえで、地下水の低下などのリスクについて整理してもらいたい。

- 地質や地下水などは、既往資料を確認した上で、それだけでは把握できない部分もあるため、しっかりと調査して補完した方が良い。また、既存トンネルの工事誌などにより、施工時の地質や工事状況を参考にすると良い。
- 温泉は、影響が出ると非常に大きな問題になると思われることから、事前にしっかりと調査してもらいたい。
- 大きな地質リスクや地下水、周辺住民への影響は極力避けつつ、避けきれない場合においては構造物による対応も検討した方が良い。なお、施工時には新技術についても積極的に活用してほしい。
- 地下埋設物を損傷させるなどの施工時のリスク、老朽化への影響、維持管理などについても意識して検討した方が良い。

以上